

サレジオ家族の集い 2018 フェルナンデス総長講話

2018. 11. 11 東京・赤羽 星美学園短期大学 講堂にて

1. 深い一致と交わりの大切さ

日本のサレジアン・ファミリーの皆さん、まず私が強調したいことは、深い一致・交わりそのものを見つけることです。

例えば、私はきょうここに来られた若者・皆さんとともに素晴らしいひとときを過ごしました。一番心打たれたことは何だと思えますか？それは、サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス会、サレジオ会…違うグループから若者たちが集い、3つの修道会が1つになっているということを見ることができたことです。この日本には貧しい人が非常に多いというわけではありませんが、こうして1つになるとき私たちの清貧さが表れてくるのです。忘れないでください。

私たちが世界に見せることのできる最高のこと、それは一致です。「サレジオ家族は交わりで1つになっている」それこそが社会に見せることのできる最高の価値なのです。私たちは忙しくて、いろいろなことをしなければなりません。しかし、まず私たちの間に一致があるということを証ししなければなりません。私たちが1つであること。これがあれば、後のことは大丈夫でしょう。皆一緒になると、多くのことをすることができます。ハンコを押す人が一番大切なわけではありません。私たちは何かをあかすために1つになっているということ、それこそが大切なのです。

一致を伝えていくこと、それは美しいことであると信じてください。ただ残念なことに、全世界どこでもそうだとということではありません。しかし、今日は違います。この意味で、本当に心からおめでとうございます。皆さん、ここで拍手をする場面ですよ（場内笑いと共に拍手）。

今回の私の訪問はとても素晴らしいものです。日本がどのような国かということを知りつつあります。非常に細やかな歓迎を受けました。どこに行っても、支部の子どもたち・若者たちがサレジオ家族として生きるという意味を与えてくれているということを印象深く感じました。これは私たちの強みです。今、この道のを歩み続けてください。速さのことを言っているわけではありません。進むことが大切なのです。

また、サレジオ家族に入ろうとする人々を熱心に呼び寄せてください。SYMに属している若者たち、彼らは一生SYMにいるということではないでしょうから、彼らもサレジオ家族の一員として招いていけるということ。これも私たちの強みなのです。私たちは生き方をもってこういう道のを歩むことができます。私たちの召命は、特別召命、結婚・家庭への召命とそれぞれ違うでしょうが、1つの修道的な活動に属しているということを感じてください。

最近私は、若者をテーマとしたシノドス（世界代表司教会議）に参加する恵みをいただきました。25日間ずっと1日8時間の会議に忍耐して参加するということを体験しました。教皇様、枢機卿、そして全世界から集まった司教たちに出会うことが出来ました。

私はその場で、正当な誇りを感じました。私たちサレジオ家族は、他と比べても素晴らしいものを有しているのだということが分かったのです。私たちが一番強いと言いたいのではありません。私たちに責任があるからこそこのように言っているのです。

はっきり言えるのは、私たちが教会の中で一番大きな家族であるということです。例えばサレジアニ・コオペラトリーは、世界中で3万2千人もいます。同窓会連合は、公的に数えるだけでも30万人以上です。本当に美しい現実です。しかしそれは、今日のようなたった一日の祝いのためだけにあるものではありません。毎日の仕事のうちに、人々に奉仕していくためでもあります。この意味で、教皇様は一番私たちに刺激してくださる方です。

教皇フランシスコが私たちに希望しているのは、開かれた教会であるということです。それは、私たち家族にとっては開かれたサレジオ家族であるということです。

2. 他者のためのサレジオ家族であること

私たちは一番弱い人たちのために生まれてきた者です。例えば、ドン・ボスコは、自らの子どもたちに一番弱い子どもたちのところに行くように指導していました。またサレジアン・シスターズのマリア・マザレロと出会ったとき、一番助けを必要とする少女たちのところに行くように言っていました。そして、サレジアニ・コオペラトリーのことを考えたときには、全世界のどこでも助けを必要とする若者たちのために活動するように願っていました。皆さんも、そのような人たちのために働く使命をもって生まれてきたのです。

私たちのサレジオ家族のグループは31個ありますが、その中でこの優先課題のないグループはないということです。これからもずっと一致しつつ続けていかなければなりません。

そこで、2つ目に皆さんにお願いしたいのは、他者のために1つのサレジオ家族であるという意識を持ち続けることです。私たちは家族として人のために何ができるかを考えつつ進んでいきましょう。ぜひ創造性をもって一致しながら進んでいってください。

そして、3つ目は…忘れてしまいました（笑）今回総長訪問にあたって皆が一緒になるこの機会は、ただお祝いするためのものではありません。皆さんは独りぼっちではないということ力を説きたいと思います。全世界のサレジオ家族は皆さんと共にいるということを感じてください。そして、皆さんもこの大きな全世界のサレジオ家族の一員であるということ意識してください。私たちがたどり着きたい、そのサレジオ家族です。

私はこれまで秘書のロペス神父と81か国を訪問してきました。いろいろな国がありましたが、本当に素晴らしいことです。ただ大変疲れます。観光することは疲れることです。でも言いたいことは、全世界どこに行っても善が行われていることをしみじみ感じます。こ

れも私たちの力として受け止めるべきことです。日本は小さいけれども大きいです。アルゼンチンと比べると小さな国ですが、でも皆さんは非常にいい方々です（笑）

神に感謝しながら、私たちは世界中でさまざまな善を行っています。神様が私たちの貧しさを通して、素晴らしいことをしてくださるのです。これを忘れてはいけません。

3. お互いにもっと知りあうこと

3つ目に言いたいことを思い出しました。皆さん、ぜひお互いに知りあう道のを歩んでください。これは、サレジアニタ（サレジオの霊性）を試験するきっかけになるかもしれません。いや、これは試験ではありません（笑）例えば、イエスのカリタス会の皆さん、VDBのことをご存じですか？サレジアニ・コオペラトリーの皆さん、カリタス会のシスターたちのカリスマのことをご存じですか？もうちょっと簡単な質問がいいですかね？サレジアン・シスターズに聞きますが、サレジオ会の神父たちがどういう人たちか知ってますか？（笑）半分冗談ですが、私たちは知らないのに愛することはできないのです。1つは教育を受けることが大切なのですが、尊敬をもつこと、そして、他の人と会ってその人が私にとって大切であると感じること、それは格別なことです。お互いに知りあうという道のは大変に長いもので、挑戦が必要です。

きょうこれまでに申し上げた3つのことを復習しましょう。1つ目が私たちの一致と交わり、2つ目が、私たちが他者のため、特に弱く助けを必要とする人々に尽くすために存在していること、3つ目は、1つの挑戦ですがもっとお互いに知りあうようになることです。

これは SYM の若者たちに昨日も言ったことですが、若者たちがたどり着かなければならない終着点は、サレジオ家族です。いつか若くなくなるのですからね（笑）ただ、いつか彼らの心を準備させなければなりません。

皆さん、私が言っていることは正しいでしょうか？（場内拍手）はい。いいですね。

先ほども濱口管区長も強調していたように、互いに祈り、出会い、分かち合うことがとても大切です。全世界のサレジオ家族の名において、皆さんを抱きしめ、皆さんのためにお祈りしたいと思います。ありがとう。